羅生門の妖鬼（1956）

メディア 映画
ジャンル
製作国 日本
色彩 B&W
時間 68分
初公開日 1956/01/03

【解説】
「牢獄の花嫁」の五都宮章人によるオリジナル脚本をもとに「殺人現行犯」の佐伯清が監督した時代劇。人気絶頂の中村錦之助、東千代之助、伏見扇太郎が初めて顔を合わせた。
ある日の夕方、渡辺綱は一条戻り橋で小百合と名乗る女性に出会うが、その女は魔性のものだった。本性を現した悪鬼の腕を斬り落とすと、鬼はそのまま飛び去っていった。物の怪が跳梁跋扈し、また群盗が出没するなど、都は不穏な空気に包まれている。源頼光の命を受けた四天王、碓井貞光、卜部季武、坂田金時と渡辺綱は都を守るべく活躍していた。羅生門の戦いで頼光に敗れた平良門の子供、平三郎敦時こそが都を騒がせる物の怪の正体だった。ある日、綱のもとへ「ひとめ鬼の腕を見せてほしい」と、乳母の茨木が訪ねてくる。

【クレジット】
監督 佐伯清
企画 マキノ光雄
藤川公成
脚本 五都宮章人
撮影 吉田貞次
美術 川島泰三
音楽 高橋半
出演 東千代之介
伏見扇太郎
月形龍之介
高千穂ひづる
中村錦之助
中村時蔵
中村歌昇
三条美樹

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.